

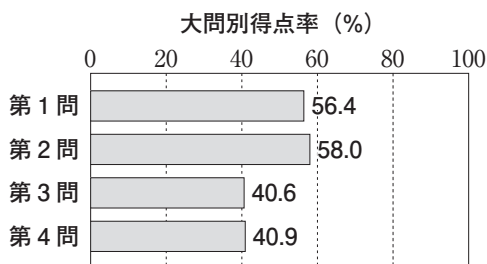
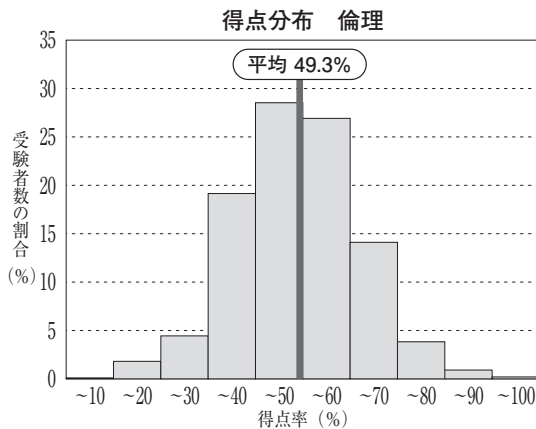
# 倫 理

知識を獲得し、演習を重ねて理解を完璧なものにしよう。

## I. 全体講評

今回の「第3回8月センター試験本番レベル模試倫理」の平均点は49.3点であった。前回と大問別に比べてみると、第2問の源流思想分野の得点率が伸びているのが目立つ。その他の大問は、第1問の青年期・現代社会分野は前回とほぼ同じ得点率を維持し、第3問の日本思想分野、第4問の西洋近現代思想分野はともに多少伸びている。このことから、夏の間に関分野を一通り学習した受験者が多いことがうかがえる。一通り学習して得点が増えているのだから、これを二回、三回と積み重ねればその分だけ得点は上昇するはずである。着実に学習を積み重ねてほしい。

センター試験の倫理は、巷間言われているほど簡単な科目ではない。センター試験本番まであと4か月余り。知識を確実にインプットし、得点に結びつけるため、過去問演習などの実戦演習を重ねよう。



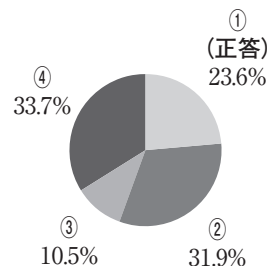
## II. 大問別分析

### 第1問 青年期・現代社会分野

高得点を取るために、もう一段階上に到達しよう。

第1問の得点率は56.4%。正答率が70%を超えた問題が4問(問6 [6], 問7 [7], 問8 [8], 問10 [10])ある一方で、30%に届かない問題が2問(問4 [4], 問9 [9])あるという、浮き沈みの激しい結果となった。問1 [1]は誤文の③の選択率が正文の④の選択率を大きく上回った。③は思想家と用語を誤った組合せにした定番の誤文であるが、これを選択するという事は、思想家と用語の名称をほんやりと覚えているだけで、どの思想家がどのような観点から人間をどう呼んだかを明確に把握していない、ということを示している。ほんやりと覚えているという段階から、明確に把握するというもう一段上の段階に到達しよう。問9 [9]は苦手とする者が多い現代思想分野である。正答できなかった受験者は、ソシュール、ホルクハイマー、ハーバーマスの思想の概要を述べているこの問題文を理解しておくとういだろう。

### 問4 [4] 各選択肢の選択率



※注) 無回答・マークミスは割愛したため、選択率の合計は100%にならないことがある。

誤文の②と④の選択率が正文の①の選択率を上回るという結果になった。②は誤りのポイントが細かいと思ったかもしれないが、功利主義に対するロールズの考え方は、ロールズの思想の本質的な部分であるから、ぜひとも理解してほしい。④

の「かけがえのない地球」は地球環境問題に関する用語である。この分野は手薄になりがちなので、この機会に押さえておこう。

### 第2問 源流思想分野

基本的な記述で迷わないように。

第2問の得点率は58.0%。キリスト教に関する問3 [13]、ブッダに関する問7 [17]の正答率が低かった。問3 [13]は正誤判断のポイントが思想の内容にあるため、うろ覚えの受験者は判断に苦しんだであろう。それを裏付けるように、各選択肢の選択率は⑧を除き、分散している。この問いについては、イトウの記述はごく基本的なことを述べているので、この二つは一読後すぐに正文と判断できるようになってほしい。問7 [17]は、約70%の受験者がbを四諦と答えていたのが特徴的であった。解説を読み、四諦と四法印を区別できるようにしておこう。ブッダの思想については、用語が非常に多いので、図や表にするなどしてそれぞれの用語の関係性を把握しよう。

### 第3問 日本思想分野

学習を積み重ね、このレベルの問題に余裕で答えられるようになるよう。

第3問の得点率は40.6%。正答率9.8%の問2 [21]と、正答率12.0%の問4 [23]が大きく得点率を引き下げた。問2 [21]は平安時代の仏教に関する問題であったが、選択肢の選択率はほぼ分散している。受験者のほとんどは何らの手がかりも得られなかったのであろう。用語の正誤判断だけでなく思想内容の正誤判断も求めている問題ではあるが、この結果はいただけない。受験者は直ちに復習を開始すること。問4 [23]は江戸時代の朱子学に関する問題であったが、こちらも選択肢の選択率はほぼ分散している。最初の空欄である林羅山の著書名で躓いた受験者が半数以上であった。著書名は、数年前はよく問われていた。再び問われることもあり得るので、注意しておきたい。なお、近代日本の思想家について問われた問7 [26]も、選択肢の選択率が分散している。正誤判断のポイントはそれぞれの思想の根幹部分であるから、十分に復習しておくこと。

### 第4問 西洋近現代思想分野

8択も4択もするべきことは変わらない。

第4問の得点率は40.9%。8択が7問中3問あり、受験者は苦勞したであろう。特に、問3 [31]は正答率が11.4%であった。選択肢の選択率を見ると、最初の空欄であるデカルトの著書名で躓いた受験者がほぼ半数であった。また、残り二つの空欄の選択率を見ても、理解しているとは到底思えない結果となっている。デカルトは近代哲学の祖と言われるだけあり、その思想は頻出である。解説を読み、西洋哲学の独特の言葉の使い方に早く慣れてほしい。8択を見ると、難しそうと思うかもしれないが、正誤判断するという作業は4択の問題と変わらない。落ち着いて一つ一つ取り組んでほしい。

## Ⅲ. 学習アドバイス

### ◆9月中に全範囲の学習を完了すること。

夏の間全範囲の学習を一通り終えた、という受験者が多いだろうが、まだという人にとっては早急に全範囲のインプットを終えることが課題である。特に夏休みから倫理の学習を始めた受験者は、まだ手つかずの分野が残っていることだろう。9月中にすべてを終わらせると覚悟を決めて、教科書、参考書を読み切ろう。

### ◆過去問演習を始める。

全範囲のインプットを終えている受験者は、過去問演習を始めよう。センター試験の倫理は選択肢の文章が他の科目と比べて長く、文章の読み取り方が甘いために誤答するというケースが多々見受けられることに注意したい。趣旨読解問題はもちろん、資料文読解問題も含めて、文章の内容を的確に読み取ること力に注ごう。

### ◆次回の模試に向けて。

次回、10月の「全国統一高校生テスト」はこれまでの模試とは意味合いがまったく異なる。というのも、結果次第で志望校選びが左右される可能性をはらんでいるからである。これまでの模試のように、失敗したので反省します、次こそ頑張ります、では済まされない。結果を残す。そのことが大きく求められるのが、次回の模試である。ここが勝負どころと、肝に銘じて臨んでほしい。